

第2章 救いの9つの面 第一 再生

はじめに

2018年6月から、みやま集会では、救いの3つの段階である「義認・聖化・栄化」を学んでいます。

救いとは、一言で言えば、人が神によって造られた本来の目的のとおり完成されることです。その完成のことを、「栄化」と言います。救いの入り口は「義認」、その入り口から入って完成に向かう途上は「聖化」、そして完成が「栄化」というわけです。

人が救いを受けるかどうかは、その救いの入り口に入るかどうかで決まります。聖書では、救いの入り口に入ることを、「神から義人であると認められる」と表現します。これを短く言ったのが、「義認」です。

では、人はどのようにしてその入り口に入るのでしょうか。また入ったらどうなるのでしょうか。聖書では9つのことを教えています。その9つのこととは、「再生、転回、信仰、悔い改め、告白、赦し、転嫁、子とされること、救われたことの確信」です。

こういうわけで、もし、あなたが伝道をしていて、救いとは何ですかと尋ねられたら、栄化のことを説明します。次に、どのようにして救いを受けるのですかと尋ねられたら、義認と9つのことを語ります。そして、救いを受けた信者はどのような生活をしたらよいのですかと尋ねられたら、聖化のことを答えるとよいのです。

聖化は、信者にとっては、その人の信仰生活そのものです。聖化は、信者になった日からこの地上の生涯を終える日、つまり、肉体の死を迎える日まで続きます。信仰生活においては、神のことばを学び、それを祈りつつ実行していくことがとても大切です。聖書のことばの中で、どの部分が新約時代の信者にとって指針となるのか、そのことも学んでおくことが有益です。

そこで、みやま集会での学びの内容と順序を次のようにしています。全部で5章です。

1. 救いとは何か＝人が神によって造られた本来の目的のとおり完成されること＝栄化
2. どのようにして救いを受けるのか、受けたらどうなるのか＝救いの9つの面
3. 救いの入り口に入ること＝「義人と認められる」＝義認
4. 信者は「義人と認められた」けれども、その人の内側には「罪の性質」は残ったままである。その人の内側が神の子にふさわしく実際に変えられていくプロセス＝聖化
5. 新約時代の信仰生活における指針とは

本日は、「第2章 救いの9つの面 第一 再生」です。

救いの9つの面 第一 再生

再生について、次のアウトラインで学びます。

1. 再生の意味
 2. 聖書の中で、「再生」という用語が使われている箇所
 3. 他の用語で「再生」と同じ意味を持つ用語
 4. 再生の手段
 5. 再生の性質
 6. 再生の結果
-
1. 再生の意味（ヨハネ 3：3～16、3節「新しく生まれる」、新生＝再生）
 - (1) 永遠の命を与える神のわざである
 - (2) 聖霊によって生まれることである
 - (3) 人がもう一度生まれることである
 2. 聖書の中で、「再生^ギパリゲネイシア」という用語が使われている箇所は、新約聖書で2か所。
 - (1) マタイ 19：28「世が改まって【パリゲネイシアにおいて】」
 - ① 大患難期が終わり、メシア王国が始まるまでの75日間の中で、荒廃した天地が再生される。その天地再生を指す。
 - ② イザヤの預言「新しい天と地を創造する」（イザヤ 65：17）は、このことを予言したものである。
 - (2) テトス 3：5「新生【パリゲネイシア】と更新の洗い」
 - ① 救いにおける新生を指す。
 - ② この働きは「聖霊による」
 3. 他の用語で「再生」と同じ意味を持つ用語（6つ）
 - (1) 新しく生まれる（ヨハ 3：3、7、Iペテ 1：3、23）→「新生」
 - (2) 神から生まれる（ヨハ 1：13、Iヨハ 2：29、3：9、4：7、5：1、4、18）
 - (3) 神の子ら（Iヨハ 3：1～2）
 - (4) 新しい創造（IIコリ 5：17）、信者は新しい被造物
 - (5) 生かされる（ヨハ 6：63「いのちを与える」、ロマ 8：1～10、エペ 2：1、5）
 - (6) 生む（ヤコ 1：18）

4. 再生の手段 (4つ、それらすべてがそろうことが必要)
- (1) **神の意志** 信者は神の意志によって再生させられる。神のみこころは、人の再生の源である (ヨハ 1:13、5:21、Ⅱコリ 5:17~18、ヤコ 1:18)
 - (2) **聖 霊** 再生のみわざを行うのは、三位一体の神のうち、聖霊なる神である (ヨハ 3:5~6、テト 3:5)
 - (3) **神のことば** 再生は、人の側での信仰と同時に起きる。その信仰の内容を人に与えるのは、神のことばである。人が再生されるためには、その前に神のことばを聞かなければならない。人はそれを信じなければならない。それを信じると、同時にその人は再生され、神の子とされ、再び生まれる (テト 3:5、ロマ 10:17、ヤコ 1:18、Ⅰペテ 1:23)
 - (4) **信 仰** 聖霊が新しい誕生をもたらすためには、人の側には信仰が必要である。信仰なくして、再生あるいは新しい誕生は起きない (ヨハ 1:12、ガラ 3:26)
 - (5) 洗礼は再生の手段ではない。人が主を受け入れて救われてから、その人に洗礼が行われる。

5. 再生の性質 10の事柄

- (1) 再生は、必要である
 - ① 生まれながらの人は、「霊的な死」の状態にある (エペ 2:1)
 - 「霊的死」とは、人の内側にある罪の性質ゆえに人が神から分離されている状態をいう。人の霊が機能停止してしまっているわけではない。
 - 人の非物質的部分は「魂、霊、心、思考、意志、良心」の6つの要素で構成されている。これに加えて、アダムの墮落によって、罪の性質が入った。この七番目の要素を、聖書は「肉」と呼ぶ。肉、すなわち罪の性質は、6つの要素すべてに影響を及ぼしている。
 - 「肉」は、人のからだ「肉体」を指すこともあるので、文脈に注意。
 - ② 霊的に神から分離されているので、そのままでは、誰一人神のことばに応答することはできない。
 - 肉にある者は神を喜ばせることはできない (ロマ 8:8)
 - だれもわたしのところに来ることはできない (ヨハ 6:44)
 - ③ 従って、霊的に生きた者とされること、再生が必要である。
- (2) 再生は、まさに「生まれる」という概念である
 - ① 再生は、神によって生まれることである。
 - この人々は (信者は)、血によってではなく (ユダヤ人の血筋によらず)、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである (ヨハ 1:13)

- ② 人を再生させるのは、第三位格の神、聖霊である（ヨハ 3：5～6）
- 人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。
 - ここでの「肉」は、人の物質的部分である「からだ」を指す。
 - 「御霊によって生まれる」とは、聖霊の働きによって、人の霊が新たにされ、神に対して霊的に生きている者となること。
- (3) 再生の基盤は、メシアの血である
- 人の側からみると、人が再生させられるのは、その人が信仰をもったからである。しかし、神がその信仰をもった人を再生させる根拠は、メシアの血にある。
- あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです（I ペテ 1：18～19）
- (4) 再生は、神の力を明らかに示すものである
- ① 父なる神は、メシアを死者の中から復活させて、神の力を公に示された。その復活において働かれたのは、聖霊なる神である（ロマ 1：4）
- ② 再生では、メシアの復活で働いたのと同じ神の力が用いられる（I ペテ 1：3 できる限り原文の語順で直訳すると）
- 神、私たちの主イエス・キリストの父がほめたたえられますように
 - そのお方はご自分の大きなあわれみのゆえに
 - 私たちを ギアナゲナオウ 生んでくださいました、生ける望みに向かって
 - ギディア（何を通してか、何によってかという）イエス・キリストの死者の中からの ギアナスタシス 復活
- ③ 誰ひとり、神なくして、再生されない。神のほかに、永遠の命を与えることのできる者はいない。再生は、神の力を明らかに示すものである。
- (5) 再生は、根本的な変化である
- ① 永遠の霊的いのちが、人の中に移植される。
- ② その人の性格・考え方・行動パターンの中に根本的な変化が起きる。
- ③ まわりの不信者との間には突然大きな亀裂が生じる。その亀裂とは、向こう側は信じないで救われていない状態、こちら側は信じて救われている状態である。
- (6) 再生は、瞬間的な変化である
- ① 「転回」は徐々に進んでいくが、再生は瞬間的に起きる。
- ② 「聖化」はプロセスを経ていくが、再生は一瞬で起きて完成する。
- ③ 転回や聖化では、信者が神のことばに応答して行動するという面があるが、再生では、信じるという内面的な動きは別として、その人の経験的な感覚では、全くの受け身の出来事である。

- ④ 再生は、次の3つによってもたらされる瞬間的な変化である
- 神の力によって
 - 聖霊の働きにより
 - その人が「信じます」と信仰を用いることの上に
- (7) 再生は、人の側では拒むことはできない
- ① ヨハネ3:8「風は思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」
- ② いったん人が信じたら、「自分を再生させないでくれ」と言うことはできない。人が信じた瞬間、再生は自動的に起きる。それは、拒むことはできないし、止めることもできない。
- (8) 再生は、不思議なことである
- ① ヨハネ3:8「風は思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」
- ② 地獄、そして火の池での永遠の滅びに向かっていた人が、どのようにして突然、瞬間的で根本的な変化を遂げて、永遠のいのちを受けた状態に自分を置くようになったのか、それを説明することは不可能である。
- (9) 再生は、転回とは区別されるべきものである
- ① 転回とは、神によって再生した人が、自分の生き方を再生した者にふさわしく変えること。
- ② 再生は神のわざである。転回は、再生させてくださった神の愛に人の側が応答していくことである。
- (10) 再生は、信仰と 同時に 起きる
- ① 再生が起きるためには、人の側での信仰が必要である。しかし、順番として、「まず人が信じる。その後しばらくして、再生が起きる」というわけではない。
- ② 「霊的に死んでいる人が信じることはできない。まず、再生が起きて、それからその人が信じるのだ」というのも、聖書の教えるところと合致しない。
- ③ 人が信じることと、その人が神によって再生されることは、同時に起きているとみるべきである。人が信じる、まさにその瞬間、再生は起きる。

6. 再生の結果 次の6つ

- (1) 新しい誕生をした (ヨハネ 1:13、3:7、ヤコブ 1:18)
- (2) 信者が新しい性質を持った (II コリ 5:17、ガラ 6:15、エペソ 4:24)
- (3) 信者が霊的に復活した。これは将来、信者が体の復活を受け取る基盤となる。(ヨハネ 5:25、ロマ 6:13、エペソ 2:5)
- (4) 新しい創造を受けた。信者は、新しい被造物である。再生は、それほどの劇的な変化である。(II コリ 5:17、エペソ 2:10、4:24)
- (5) 永遠の保証を受けた。再生は取り消すことができない。肉体の誕生でも、いったん生まれたなら、もはや母親の胎内に戻ることはできない。霊的な誕生も同じである。いったん再生したら、それをなかったことにはできない (ピリピ 1:6)
- (6) 信者に新しい体験をする道が開かれた。信者は新しいライフスタイルを生きることになる (I ヨハ 2:29、3:9、4:7、5:14、18)。新しい体験とは・・・
 - ① 信者は、誘惑に打ち勝つことができる (I ヨハ 5:4、16、18)。古い性質＝罪の性質＝肉に従うのか、新しい性質に従うのか、選択することができる。信者でない人は、新しい性質をもっていないので、選択の余地はなく、罪の性質の上で思い、考え、行動するほかない。
 - ② 信者は、「あなたの雰囲気が変わった」と言われる (I ヨハ 4:19、5:1～2)

信者が新しい体験をしていくのは、その人が来るべき世において確かで色あせることのない本物の資産を相続することになる「相続人」であることを示す (ロマ 8:16～17)。